

著者名	題名	書名	(編集者名)	発行社名	(発行地名)	出版西暦年	頁
葛原茂樹	(3. 変性疾患—3.3大脳基底核の変性疾患—3.3.9, 3-3-10, 3-3-11, 3-3-12) 有棘赤血球舞蹈病 (chorea-acanthocytosis), ジル・ド・ラ・トゥレット症候群, 発作性舞蹈アテトーゼ (paroxysmal choreoathetosis), ファール病 (Fahr disease)と特発性基底核・小脳石灰化症 (idiopathic calcification of basal ganglia and cerebellum)	神経内科学書 第2版	豊倉康夫 総編	朝倉書店	東京	2004	513-517
葛原茂樹	(14. 脊髄疾患—14.4) 変性疾患	神経内科学書 第2版	豊倉康夫 総編	朝倉書店	東京	2004	724-736
葛原茂樹	筋萎縮性側索硬化症	特定疾患介護ハンドブック [改定第4版]	疾病対策研究会 監修	社会保険出版社	東京	2004	20
葛原茂樹	パーキンソン病関連疾患のうち進行性核上性麻痺	特定疾患介護ハンドブック [改定第4版]	疾病対策研究会 監修	社会保険出版社	東京	2004	50
葛原茂樹	パーキンソン病関連疾患のうち大脳皮質基底核変性症	特定疾患介護ハンドブック [改定第4版]	疾病対策研究会 監修	社会保険出版社	東京	2004	51
葛原茂樹	パーキンソン病関連疾患のうちパーキンソン病	特定疾患介護ハンドブック [改定第4版]	疾病対策研究会 監修	社会保険出版社	東京	2004	52
葛原茂樹	ハンチントン病	特定疾患介護ハンドブック [改定第4版]	疾病対策研究会 監修	社会保険出版社	東京	2004	55
葛原茂樹	球脊髄性筋萎縮症 (Kennedy-Alter-Sung病)	特定疾患介護ハンドブック [改定第4版]	疾病対策研究会 監修	社会保険出版社	東京	2004	80
葛原茂樹	脊髄性進行性筋萎縮症	特定疾患介護ハンドブック [改定第4版]	疾病対策研究会 監修	社会保険出版社	東京	2004	104
水野美邦	Parkinson病-最新の動向 はじめに, 企画.	週間医学のあゆみ No. 6		医歯薬出版株式会社	東京	2004	475
水野美邦	臨床医学の展望 神経病学-血管系を除く一.	日本医事新報 No. 4163		日本医事新報社	東京	2004	6-15
水野美邦	神経疾患 パーキンソン病.	今日の診療のために ガイドライン外来診察2004		日経メディカル 開発	東京	2004	405-407

著者名	題名	書名	(編集者名)	発行社名	(発行地名)	出版西暦年	頁
水野美邦	<Special Article> パーキンソン病の病因 解明と今後の治療戦 略.	臨床雑誌 内科4 特集 パーキンソン病-治療の問 題点と今後の展開-		南光堂	東京	2004	604-610
水野美邦	Parkinson病	EBM内科処方指針 X, 神 経1004		中外医学 社	東京	2004	995- 1004
水野美邦	日本神経学会専門医試 験の現状.	精神科4 (1) 特集学会 専門医制度はどこへゆく				2004	33-36
水野美邦	神経疾患の医療手順: Parkinson病.	神経治療学 Vol21 No.2 日本神経治療学会機関誌			東京	2004	111-119
水野美邦	1. 初期パーキンソン病 治療のノウハウ.	パーキンソン病治療薬の 選び方と使い方.		南江堂	東京	2004	1-9
水野美邦	3. パーキンソン病治療 の実際.	パーキンソン病治療薬の 選び方と使い方.		南江堂	東京	2004	43-46
水野美邦	Parkinson病および関 連疾患の治療の進歩.	神経治療学 第21巻 第4 号 特集/神経疾患治療の 進歩				2004	393-396
水野美邦	第5章 パーキンソン 病.	先端医療シリーズ30 神 経内科 神経内科の最新 治療.		先端医療 技術研究 所	東京	2004	115-121
中野今治	Progressive non- fluent aphasia.	痴呆症学2		(株)日本 臨床社	大阪	2004	162-166
中野今治	神経梅毒	神経内科学書	豊倉康夫	朝倉書店	東京	2004	439-444
森若文雄、 佐々木秀直、 田代邦雄	ALSと脊髄性筋萎縮症	改訂第2版 EBMに基づく 脳神経疾患の基本治療指 針	田村 晃、 松谷雅生、 清水輝夫	Medical View	東京	印刷中	
岡本幸市	筋萎縮 muscular atrophy	今日の治療と看護	水島 裕ら	南江堂		2004	173-175
郭 伸	ムコ多糖症	神経内科学書 第2版	豊倉康夫、 萬年徹、 金澤一郎	朝倉書店	東京	2004	561-564
郭 伸	核酸代謝異常症、	神経内科学書 第2版	豊倉康夫、 萬年徹、 金澤一郎	朝倉書店	東京	2004	576-577
郭 伸	金属代謝異常症	神経内科学書 第2版	豊倉康夫、 萬年徹、 金澤一郎	朝倉書店	東京	2004	578-581

著者名	題名	書名	(編集者名)	発行社名	(発行地名)	出版西暦年	頁
郭 伸	ポルフィリン代謝異常症	神経内科学書 第2版	豊倉康夫、 萬年徹、 金澤一郎	朝倉書店	東京	2004	581-584
郭 伸	血清蛋白異常症	神経内科学書 第2版	豊倉康夫、 萬年徹、 金澤一郎	朝倉書店	東京	2004	585-587
郭 伸	DNA修復異常症	神経内科学書 第2版	豊倉康夫、 萬年徹、 金澤一郎	朝倉書店	東京	2004	587-589
日出山拓人、 河原行郎、 郭 伸	運動ニューロン病の分子病態と治療 2. 孤発性ALS	先端医療シリーズ30「神経内科の最新医療」		先端医療技術研究所		2004	143-149
郭 伸	筋萎縮性側索硬化症	今日の治療指針2005年版	山口徹、 北原光夫	医学書院	東京	2005	652-653
久野貞子		パーキンソン病はこわくない		榊悠飛社	東京	2004	1-157
近藤智善	パーキンソン病治療薬	治療薬 up-to-date	矢崎義雄 (監修)、 松沢佑次, 他 (編)	メディカルレビュー社	東京	2004	66-68
三輪英人、 近藤智善	進行期パーキンソン病運動障害の治療	よくわかるパーキンソン病のすべて	水野美邦、 近藤智善	永井書店	東京	2004	122-136
近藤智善	病因概論	パーキンソン病のすべて	脳の科学編集委員会	星和書店	東京	2004	101-105
近藤智善	治療最適化に求められるもの	パーキンソン病のすべて	脳の科学編集委員会	星和書店	東京	2004	371-376
長谷川一子	パーキンソン病の内科的治療	今日の治療2004	山口 徹、 北原光夫	医学書院		2004	634-636
長谷川一子	パーキンソン病の治療(1) 早期パーキンソン病の治療	よくわかるパーキンソン病のすべて	水野美邦、 近藤智善	永井書店		2004	100-119
長谷川一子	パーキンソン病の治療薬の種類、特徴、副作用、いつ使うか	パーキンソン病治療薬の選び方と使い方	水野美邦	南江堂		2004	
長谷川一子	27) 食事上の注意 28) 排泄, 転倒, 服の着脱, 睡眠 29) スポーツ, 趣味, レクリエーションなど		神奈川パーキンソン病の治療を考える会編	新樹社		2004	

邦文原著・症例報告

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
岩本卓也、井岡三佳、内藤 寛、 賀川義之、葛原茂樹、小島康生	タクロリムスが有効であった重症筋 無力症OssermanⅢ型及びⅡb型 高齢者の2症例	YAKUGAKU ZASSHI	124	237-241	2004
川田憲一、葛原茂樹	Terguride服用者に出現した肢端 紅痛症	内科	93	777	2004
近藤昌秀、目崎高広、渡辺佳夫、 駒田茂昭、葛原茂樹	難聴の改善とともに難聴脳幹反応 所見が正常化した橋出血の1例	神経内科	61	375-379	2004
松浦慶太、小久保康昌、葛原茂樹	一側の延髄錐体梗塞の発症4日 後にMRI拡散強調画像で描出さ れた頸髄側索のWaller変性	神経内科	61	401-402	2004
内藤 寛、葛原茂樹	高マンガン血症、パーキンソニズ ムを呈した肝硬変の一例	運動障害	14	65-69	2004
服部優子、服部達哉、 向井栄一郎、森 秀生、 水野美邦、粥川裕平、岡田 保、 神林 嵩	日中の過眠と髄液オレキシンA/ ハイポクレチン低値を示し、進行性 核上性麻痺と考えられた一例。	脳神経	55(12)	1053- 1056	2004
大山彦光、林 明人、永田智行、 籠橋麻紀、望月秀樹、水野美邦	両側帯状回病変にみられた笑い 発作の一例。	The Journal of Movement Disorder and Disability	Vol.14 No.1	27-31	2004
石原健司、利 栄治、河村 満、 中野今治	L-dopa不応性のParkinson病剖検 例	神経内科	60	425-431	2004
埴 直子、永山亮造、栗原裕子、 高柳もとえ、立澤英貴、高森頼雪、 滝川 一、福島純一、福里利夫、 志賀淳治、會田 浄、中野今治	劇症肝炎の回復期にヘルペス脳 炎を発症した1例。	肝臓	45	360-365	2004
永田三保子、瀧山嘉久、 嶋崎晴雄、中野今治、宮嶋裕明	2602 delGをホモ接合体で有し小 脳失調を呈した無セルロプラスミン 血症の1例	脳と神経	56	885-889	2004
永田三保子、松 春子、 森田光哉、中野今治	Baló病様同心円性多層性病巣を 呈した多発性硬化症	神経内科	61	210-212	2004
山本敏之、藤原由貴、横田真知 子、中村治雅、清水宏、 片岸美帆、尾方克久、竹嶋光代、 山村隆、川井充	多発性硬化症のinterferon-β 1b 治療導入におけるクリティカルパス の検討	神経治療学	21(2)	175-181	2004
山本敏之、菊池猛、永江順子、 尾方克久、小川雅文、川井充	ディスプロンディを主徴とし環境音 失認をともなった右側頭葉血流低 下の1例	臨床神経	44(1)	28-33	2004

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
大矢寧、小川雅文、川井充	Proportional assist ventilationをもちいた、呼吸筋力低下患者の呼吸器系のelastanceとresistanceの測定	臨床神経	44(4/5)	268-273	2004
山本敏之、大矢寧、五十嵐修、豊田千純子、小川雅文、川井充	上眼瞼部に腫瘤を触知した慢性脱髄性多発ニューロパチーにおける多発性末梢神経腫脹のMRI,電気生理学的検査による検討	臨床神経	44(4/5)	286-290	2004
山本敏之、尾方克久、片岸美帆、清水宏、小川雅文、山村隆、川井充	日本語版Multiple Sclerosis Quality of Life-54の信頼性の検討	臨床神経	44(7)	417-421	2004
豊田千純子、小川政文、大矢寧、川井充	筋疾患における呼吸機能スクリーニングとしての最大発生時間	脳と神経	56(10)	873-876	2004
砂田典子、出口健太郎、永野功、幡中邦彦、山脇均、藤木茂篤、東海林幹夫、阿部康二	片側顔面神経麻痺と舌下神経麻痺のみを呈した皮質梗塞の1例	脳と神経	56	801-804	2004
村上哲郎、瓦林毅、松原悦朗、永野功、東海林幹夫、阿部康二、今居謙、井上治久、高橋良輔	パーキンソン病患者のレビー小体におけるPeal-R, ParkinnおよびGlupの関与	Progress in Medicine	24	3049-3053	2004
和泉唯信、梶龍兒、原田雅史、西田善彦、宇高不可思、亀山正邦	一側上肢優位にミオクローヌスを認めるパーキンソン症候群	脳神経外科速報	14(9)	871-873	2004
和泉唯信、梶龍兒、原田雅史、西中和人、川上秀史	意識喪失発作を繰り返しばまん性の白質病変を認める初老男性	脳神経外科速報	14(5)	435-437	2004
森田修平、三輪英人、近藤智善	塩酸ドネペジルによりカトニアを呈したレビー小体型痴呆が疑われた一例.	脳神経	56	881-884	2004
中西一郎、三輪英人、早田聡宏、川田明広、近藤智善	統合失調を合併した SCA6 (spinocerebellar ataxia 6)の一例.	脳神経	56	49-52	2004
紀平為子、河本純子、吉田宗平、広西昌也、近藤智善、中尾直之、後藤雄、西野一三、埜中征哉	MELAS様症状で発症した cytochrome C oxidase (COX) 完全欠損の成人例	臨床神経学	44	187-192	2004
浜喜和、三輪英人、西野一三、埜中征哉、近藤智善	封入体筋炎に慢性甲状腺炎、 Sjogren症候群、自己免疫性胆管炎を合併した1例	脳神経	56	503-507	2004
森田修平、西山大介、三輪英人、近藤智善	精神症状にて発症したビタミンB12 欠乏性白室脳症の1例	和歌山医学	55	211-213	2004

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
中西一郎, 三輪英人, 近藤智善	パーキンソン病の抗振戦作用に関するゾニサミドとトリヘキシフェニジルのクロスオーバー比較	Progress in Medicine	24	2997-3001	2004
栗山長門, 渡邊能行, 水野敏樹, 中川正法.	オリーブ橋小脳萎縮症の病初期における自律神経機能評価の試み -ホルター心電図RR間隔周波数解析による検討-	自律神経	41	35-353	2004
山下泰治, 矢部勇人, 立花一朗, 永井将弘, 野元正弘	発症5カ月後に初めてMRIで異常所見を確認できたアトピー性脊髄炎	神経内科	61(3)	303-305	2004
津田浩昌, 石川 弘, 松永華子, 水谷智彦	多発性硬化症80例の神経眼科学的検討	臨床神経学	44 (8)	513-521	2004

邦文総説

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
葛原茂樹	脳血管性痴呆 分類と病理像。(痴呆症学—高齢社会と脳科学の進歩—)	日本臨牀	62(増刊号1)	28-33	2004
葛原茂樹	II. 神経変性疾患による痴呆(変性性痴呆) 痴呆を伴う運動ニューロン疾患 紀伊半島のALSとパーキンソン痴呆複合。(痴呆症学—高齢社会と脳科学の進歩—)	日本臨牀	62(増刊号1)	141-146	2004
伊井裕一郎, 葛原茂樹	ビタミン欠乏症 ビタミンB12 (痴呆症学(2)—高齢社会と脳科学の進歩— 臨床編IV. 一般身体疾患による痴呆 栄養障害・代謝異常)	日本臨牀	62(増刊号1)	365-367	2004
内藤 寛, 葛原茂樹	薬物による痴呆 抗パーキンソン病薬 (痴呆症学(2)—高齢社会と脳科学の進歩— 臨床編IV. 一般身体疾患による痴呆 薬物, 化学物質による痴呆症)	日本臨牀	62(増刊号1)	470-474	2004
佐藤正之, 葛原茂樹	パーキンソン病の高次脳機能障害と精神症状	臨床精神医学	33(1)	39-43	2004
佐藤正之, 葛原茂樹	視床性痴呆	神経内科	60(1)	28-32	2004
葛原茂樹	パーキンソン病と鑑別すべき症候性パーキンソニズム—薬剤性パーキンソニズム	診断と治療	92(5)	755-758	2004
小久保康昌, 葛原茂樹	パーキンソン病と鑑別すべき変性疾患—その他の変性疾患	診断と治療	92(5)	789-793	2004
伊藤伸郎, 葛原茂樹	特集 生活習慣の改善は痴呆を予防するか—飲料水と痴呆	成人病と生活習慣病(学会准機関誌)	34(4)	519-524	2004
伊藤伸郎, 葛原茂樹	臨床編 VIII. 痴呆の診断 脳脊髄液検査 生物学的マーカー検査 —タウ+アミロイドβ ペプチド40/42 (痴呆症学(1)—高齢社会と脳科学の進歩)	日本臨牀	61(増刊号9)	503-507	2004
葛原茂樹	高齢者パーキンソン病の臨床	日老医誌	41	245-253	2004
小久保康昌, 葛原茂樹	パーキンソニズムと痴呆・トピックス 紀伊半島とグアム島のパーキンソン痴呆複合	Medical Practice	21(7)	1124-1125	2004
伊藤伸郎, 葛原茂樹	筋強直性ジストロフィーと妊娠	神経内科	61(1)	63-68	2004
伊井裕一郎, 葛原茂樹	副腎皮質ステロイドによる精神症状(精神症状から見た老年期の神経疾患 II: 神経疾患治療薬による精神症状)	老年精神医学雑誌	15(7)	846-850	2004
葛原茂樹	紀伊半島の筋萎縮側索硬化症・パーキンソン・痴呆複合の臨床遺伝学 —従来の原因仮説, 家系例の紹介, 問題点—	神経進歩	48	769-777	2004
桃井浩樹, 進藤政臣, 柳澤信夫, 田邊 等, 水野美邦, 高橋桂一	本邦における筋萎縮側索硬化症の病勢経過—厚生省特定疾患神経変性疾患調査研究班調査より—	神経研究の進歩	第48巻第1号	133-144	2004
水野美邦	3.3. 大脳基底核の変性疾患. 3.3.1. パーキンソン病およびパーキンソニズム.	神経内科学書	第2版	475-492	2004

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
水野美邦	3.3.大脳基底核の変性疾患. 3.3.2 線条体黒質変性症.	神経内科学書	第2版	493-496	2004
水野美邦	3.3.大脳基底核の変性疾患. 3.3.3 進行性核上性麻痺.	神経内科学書	第2版	497-499	2004
水野美邦	3.3.大脳基底核の変性疾患. 3.3.4 グアム島のパーキンソン痴呆症候群.	神経内科学書	第2版	500	2004
水野美邦	3.3.大脳基底核の変性疾患. 3.3.5びまん性レビイ小体病.	神経内科学書	第2版	501-502	2004
森 秀生, 水野美邦	薬剤性パーキンソンニズムとパーキンソン病ー総論的にー.	医薬ジャーナル	Vol.40 No. 1	69-72	2004
望月秀樹, 水野美邦	臨床医による新薬の評価 塩酸プラミペキソール水和物.	臨床と薬物治療	第23号 第2号	177-178	2004
望月秀樹, 水野美邦	成体脳におけるドーパミン神経細胞の再生.	医学の歩み	208	509-513	2004
望月秀樹, 水野美邦	パーキンソン病を疑う時と検査の進め方	診断と治療	2004		2004
望月秀樹, 水野美邦	パーキンソン病治療薬 ドパミン作動薬 塩酸プラミペキソール水和物.	臨床と薬物治療	2004年4 月号/第 23巻第4 号	309-311	2004
望月秀樹, 安田 徹, 古谷 剛, 水野美邦	2. パーキンソン病のドーパミン神経細胞死.	実験医学 成熟・展開する アポトーシス研究		196-202	2004
深江治郎, 服部信孝, 水野美邦	若年性パーキンソン病の原因の解明.	現代医療	vol.36 No.4	122(908)- 128(914)	2004
中野今治	Parkinson病の遺伝子治療に向けて	医学の歩み	208	589-595	2004
中野今治	Parkinson病の遺伝子治療に向けて	日本臨床62	62 (Suppl 1)	162-166	2004
中野今治	臨床医のための神経病理 Marchiafava-Bignami病	CLINICAL NEUROSCIENCE	22	754-755	2004
中野今治	パーキンソニズム 病因・病態生理からみた 実地診療の進め方	Medical Practice	21	1044-1053	2004
中野今治	パーキンソン病の遺伝子治療	最新医学	59	1611-1619	2004
瀧山嘉久, 永田三保子, 中野今治	無セルロプラスミン血症の血液検査と画像	神経内科	61	140-145	2004
嶋崎晴雄, 中野今治	筋炎の診断、画像診断	CLINICAL NEUROSCIENCE	22	1163-1165	2004
中野今治	大脳辺縁系の線維連絡	CLINICAL NEUROSCIENCE	23	17-19	2004
中村治雅, 川井充	短パルス矩形波治療器の適応が期待される 疾患:パーキンソン病	精神科治療学	18(12)	1411-1415	2003

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
川井充、大矢寧、 本吉慶史	筋ジストロフィーのMRI	神経内科	60(3)	230-232	2004
川井充	筋強直性ジストロフィー-最近の進歩と診療 の課題-	神経内科	60(4)	339-342	2004
川井充	内科医のための脳疾患講座36:炎症性筋疾 患 その1	BRAIN MEDICAL	16(2)	174-178	2004
川井充	治療に反応するパーキンソニズム、反応しな いパーキンソニズム-その鑑別と対策-	Medical Practice	21(7)	1111-1115	2004
川井充	筋および神経・筋疾患とその鑑別診断 筋強 直性ジストロフィー	脊椎脊髄ジャーナル	17(9)	879-884	2004
川井充	内科医のための脳疾患講座36:炎症性筋疾 患 その2	BRAIN MEDICAL	16(3)	256-261	2004
川井充	筋炎の基礎知識 分類と定義	Clinical Neuroscience	22(10)	1129-1131	2004
川井充	わかりやすいParkinson病 Parkinson病関連 の用語とその解説	臨床医	30(11):	1884-1887	2004
山口拓洋、大生定義、 斉藤真梨、伊藤陽一、 森若文雄、田代邦雄、 大橋靖雄、福原俊一	ALS特異的QOL尺度ALSQ-40日本語版 そ の妥当性と臨床応用に向けて-	脳と神経	56(6)	483-494	2004
田代邦雄、森若文雄	<抗パーキンソン病治療薬>プラミベキソ ール	医薬ジャーナル 増刊号	40 S-1	59-61	2004
宮崎雄生、菊地誠志、 森若文雄	妊娠・分別と多発性硬化症	神経内科	61	44-48	2004
森若文雄	ビタミン欠乏 ニコチン酸	日本臨床増刊号 痴呆症学2	21(3)	373-375	2004
森若文雄、田代邦雄	脳腫瘍とパーキンソン症候群	脳の科学増刊号 パーキンソン病のすべて	26	229-232	2004
戸田達史	パーキンソン病の遺伝的要因	脳の科学	26	106-110	2004
戸田達史	孤発性パーキンソン病の疾患感受性遺伝子 の解析	内科	93	717-723	2004
戸田達史・永井義隆	難治神経疾患	Molecular Medicine	41	314-321	2004
水田依久子・戸田達史	孤発性パーキンソン病の疾患感受性遺伝性 同定へのアプローチ	日本臨床	62	1635-1640	2004
佐竹渉・戸田達史	パーキンソン病の分子遺伝学	神経研究の進歩	48	741-749	2004
戸田達史	Parkinson病の遺伝	臨床医	30	2066-2070	2004
青木正志、 永井真貴子、 石垣あや、糸山泰人	神経栄養因子HGFの髄腔内投与によるALS 治療法の開発	最新医学	59	87-93	2004
荒崎圭介	運動単位推定数(MUNE)の原理と応用。	神経内科	60	273-280	2004

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
荒崎圭介	運動単位推定数(1)－その算出原理－。	臨床脳波	46	244-253	2004
荒崎圭介	運動単位推定数(2) －神経疾患における変化－。	臨床脳波	46	306-314	2004
岡本幸市	17番染色体に連鎖するパーキンソニズムを伴う前頭側頭葉型痴呆(FTDP-17)	脳の科学	26巻増刊号	245-248	2004
岡本幸市	痴呆を伴うパーキンソン病・パーキンソニズムを伴う痴呆症. 実地医家に必要な臨床	medical Practice	21(7)	1054-1060	2004
田中 真, 岡本幸市	parkinson病	臨床医	30(増刊号)	899-901	2004
藤田行雄, 岡本幸市	運動ニューロン疾患におけるGolgi装置	Clinical Neuroscience	23(1)	12-13	2004
郭 伸, 山本義春	確率共振による神経疾患の新しい治療戦略	治療	86	140-141	2004
河原行郎, 郭 伸	脳科学におけるRNA編集の重要性	Clinical Neuroscience	22	250-251	2004
河原行郎, 郭 伸	ALSにおけるRNA編集異常と脊髄運動ニューロン死	医学の歩み	209	979-980	2004
河原行郎, 日出山拓人, 郭 伸	筋萎縮性側索硬化症の分子標的治療への展望	最新医学	59	1620-1626	2004
郭 伸	ALSのグルタミン酸受容体異常と病因との関連について	運動障害	14	33-41	2004
日出山拓人, 河原行郎, 郭 伸	筋萎縮性側索硬化症における運動ニューロン死の分子病態	内科	94	952-961	2004
相馬りか, 郭 伸, 山本義春	経皮的電流ノイズによる自律神経機構の改善と治療応用の可能性	循環制御	25	352-355	2004
和泉唯信, 梶 龍兒	筋萎縮性側索硬化症に対するメチルコバラミン大量療法	神経内科	61(4)	341-344	2004
久野貞子	パーキンソン病と鑑別すべき変性疾患 多系統萎縮症- 線条体黒質変性症を中心に-	診断と治療	92(5)	772-776	2004
久野貞子	脳深部刺激療法の患者選択と術後経過	脳21	7(3)	65(287)-67(289)	2004
久野貞子	パーキンソン病の疾患概念・病因・診断基準	日本臨牀	62(9)	1603-1607	2004
久野貞子	悪性症候群	脳の科学	(増刊号)	327-329	2004
久野貞子	パーキンソン病治療の最前線	映像情報	36(13)	1496-1500	2004
久野貞子	パーキンソン病患者の悪性症候群の予防と治療	日本臨牀	62(9)	1721-1724	2004
近藤智善	パーキンソン病, 家族性パーキンソン病	日本臨牀62(増刊号1) 痴呆症学(2)	62	96-101	2004
近藤智善	《より早く正確な診断のために》パーキンソン病の臨床症状と診断のポイント	内科	93	629-635	2004

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
近藤智善, 広西昌也	Parkinson病の診断と治療のガイドライン	最新医学	59, Suppl	1437-1454	2004
近藤智善	パーキンソン病薬物治療のスタンダードーその実際と薬効の評価・副作用対策	Medical Practice	21	1127-1136	2004
近藤智善	パーキンソン病	Medical Practice	21	301-305	2004
近藤智善	パーキンソン病の予後決定因子	成人病と生活習慣病	34	883-887	2004
近藤智善, 広西昌也	抗パーキンソン病薬による精神症状	老年精神医学雑誌	15	833-839	2004
近藤智善, 広西昌也	ドパミン作動薬とL-DOPAの使い方	臨床医	30	2021-2028	2004
近藤智善	パーキンソン病の診断・治療の最前線	大阪医学	38	36-41	2004
近藤智善	パーキンソン病治療ガイドラインの問題点	臨床神経学	44	831-832	2004
澤田秀幸, 下濱 俊	レビー小体型痴呆の生化学	Cognition and Dementia	4	34-39	2005
澤田秀幸, 山川健太郎, 下濱 俊, 泉 安彦, 赤池昭紀, 北村佳久, 谷口隆之	a-synuclein 陽性封入体とドパミンニューロン死との関係	Progress in Medicine	24	3041-3048	2005
若林孝一, 西江 信, 丹治邦和, 森 文秋, 高橋 均	アルファシヌクレイノパチーの神経病理.	神経進歩	48	385-397	2004
若林孝一, 林森太郎, 高橋 均	タウオパチーの病理.	Clin Neurosci	印刷中		
高橋 均	筋萎縮性側索硬化症とはどのような疾患か?	医学のあゆみ	印刷中		
中川正法, 高嶋 博	遺伝性ニューロパチーupdate	臨床神経	44	991-994	2004
楠見公義, 中島健二	パーキンソン病の疫学と危険因子	臨床精神医学	33	5-11	2004
貫名 信行	ハンチントン病の治療戦略	最新医学	59	1593-1598	2004
永井将弘, 野元正弘	薬物による痴呆	痴呆症学(2) 日本臨床社, 東京	62	S498-S502	2004
中塚晶子, 野元正弘	各種薬剤の副作用としてのパーキンソニズム ~その成因, 特徴ならびに対応~ 1)フェノチアジン系抗精神病薬	医薬ジャーナル	40(1)	73-77	2004
野元正弘	筋弛緩薬, 局所麻酔薬	シンプル薬理学, 江堂, 東京	南	93-100	2004
矢部勇人, 野元正弘	パーキンソン病薬の種類と使い方	内科	93(4)	658-662	2004
永井将弘, 野元正弘	パーキンソン病治療薬の種類と特徴	診断と治療	92(5)	795-801	2004
永井将弘, 野元正弘	MAO阻害薬およびCOMT阻害薬	脳の科学	26(292)	297-301	2004

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
永井将弘, 野元正弘	抗パーキンソン病薬の現状と展望	Medico	35(3)	1-4	2004
野元正弘	医師主導治験の推進と今後の課題	日本医事新報	4195	57-58	2004
野元正弘	パーキンソン病治療薬の薬理学的作用機序モデル	日本臨床	62	1653-1660	2004
橋本隆男	パーキンソン病症候の運動学・病態生理学	脳科学	1	69-74	2004
橋本隆男	大脳基底核の神経回路	内科	4(別冊)	623-627	2004
橋本隆男	パーキンソン病の治療. 定位脳手術の種類と適応	診断治療	5	819-824	2004
橋本隆男	脳深部刺激療法 of 患者選択. —パーキンソン病の手術適応時期—	脳21	7	290-293	2004
長谷川 一子	ベンズアミド系抗精神病薬～胃腸機能調整薬, 制吐薬などに属する薬物も含む～	医薬ジャーナル	40	85-90	2004
長谷川 一子	パーキンソン病・パーキンソン症候群	薬局		77-78	2004
長谷川 一子, 松山 学, 古和 久幸, 小幡 文弥	新しい優性遺伝の家族性Parkinson病	医学のあゆみ	208	521-525	2004
長谷川 一子	その他の遺伝性パーキンソン病家系と遺伝子	脳の科学(増刊号パーキンソン病のすべて)		194-205	2004
長谷川 一子	ドパミンゴニスト	脳の科学(増刊号パーキンソン病のすべて)		288-296	2004
矢崎 義雄, 長谷川 一子, 郭 他, 双津 正博	高齢化社会に於けるパーキンソン病と痴呆のプライマリケア—その実際から将来展望まで—	Medical practice パーキンソニズムと痴呆	21	1061-1073	2004
長谷川 一子	パーキンソン病の診断と鑑別	Medical practice パーキンソニズムと痴呆	21	1099-1104	2004
村田 美穂, 長谷川 一子, 沖山 亮一	パーキンソン病—今後の展開	内科	93	731-743	2004
長谷川 一子	自律神経症状。(便秘, 排尿障害, 起立性低血圧症)への対応	診断と治療	92	831-834	2004
長谷川 一子	パーキンソン病	成人病と生活習慣病	34	375-378	2004
長谷川 一子	睡眠障害	日本臨床	62	1667-1673	2004
長谷川 一子	早期Parkinson病の治療	臨床医	30	2006-2009	2004
長谷川 一子	パーキンソン病の新規治療薬	医学と薬学	52	331-335	2004
長谷川 一子	不随意運動と筋電図	日本臨床神経生理学学会 技術者講習会テキスト	41	193-207	2004

著者名	論文題名	雑誌名	巻	頁	出版西暦年
長谷川 一子	パーキンソン病	週刊朝日	10/22号	98-99	2004
林 秀明	ALSの緩和ケア	JALSA	61	35-42	2004
林 秀明	ALSの重度コミュニケーション障害について	難病とケア	10	8-11	2004
横田隆徳、水澤英洋	RNAiを用いたC型肝炎の遺伝子治療	Molecular Medicine	41(1)	36-43	2004
南 正之、水谷智彦	パーキンソン病と鑑別すべき変性疾患:レビー小体型痴呆	診断と治療	92(5)	784-787	2004
水谷智彦	てんかんの予後決定因子	成人病と生活習慣病	34(6)	897-900	2004

Ⅲ. 発足時から現在までの事業評価と 今後の研究の展開について

(1973年度～2004年度 31年間の研究総括として
平成17年2月4日厚労省へ提出)

発足時から現在までの事業評価と今後の研究の展開について

目 次

1. 難治性疾患克服研究の対象疾患-----242
(筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病、
進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症、球脊髄性進行性萎縮症、
脊髄空洞病)

2. 特定疾患治療研究事業の対象疾患 -----264
(筋萎縮性側索硬化症、パーキンソン病、ハンチントン舞蹈病、
進行性核上性麻痺、大脳皮質基底核変性症)

1. 難治性疾患克服研究の対象となっている121疾患について

主任研究者； 葛原 茂樹

疾患名； 筋萎縮性側索硬化症 (ALS), パーキンソン病 (PD),
 ハンチントン舞踏病 (HD), 進行性核上性麻痺 (PSP),
 大脳皮質基底核変性症 (CBD),
 球脊髄性進行性筋萎縮症 (SBMA: Kennedy 病), 脊髄空洞症

1. 初代研究班発足から現在までの間の研究成果について (特定疾患の研究班が独自に解明・開発し、本研究事業として公表したもの。なお、原則他の研究事業等に依存していないもの。)

(1) 原因究明について (画期的又は著しく成果のあったもの)

疾患名	時期 及び 班長名 (当時)	内容	備考
ALS	1993 年度 柳澤信夫	紀伊半島 ALS 多発地区の ALS 患者のアンモン角神経細胞を X 線エミッションスペクトメトリーで調べ、アルミニウム蓄積を確認した	別添 (最終項) ALS-1
	2003 年度 葛原茂樹	紀伊半島 ALS 多発地区は消滅することなく残存していたこと、パーキンソン痴呆を含め家族性で発症するタウ異常症であることを明らかにした	別添 ALS-2
PD	1998 年度 田代邦雄	常染色体劣性若年性パーキンソニズム (ARJP) 原因遺伝子 Parkin 発見	別添 PD-1
	2002 年度 葛原茂樹	常染色体優性パーキンソン病 (Park8, 相模原家系) 原因遺伝子座の決定	別添 PD-2
	2002 年度 葛原茂樹	孤発性パーキンソン病の発症リスク遺伝子多型の探索	別添 PD-3
HD	1990 年度 中西孝雄	わが国のハンチントン病家系において欧米例と同じく第 4 番染色体 G8 プローグに連鎖することの証明	別添 HD-1
PSP	2004 年度 葛原茂樹	進行性核上性麻痺の発症リスク遺伝子多型で、日本人固有のタイプを抽出した	別添 PSP-1
CBD		特になし	
SBMA	1989 年度 萬年 徹	本症の臨床病理像、遺伝様式を解明し、運動ニューロン疾患の中で疾患概念を確立	別添 SBMA-1
脊髄空洞症		特になし	

(2) 発生機序の解明について (画期的又は著しく成果のあったもの)

疾患名	時期 及び 班長名 (当時)	内容	備考
ALS	2001 年度 田代邦雄	ALS 脊髄にはユビキチンリガーゼ作用をもつ蛋白-ドレフィンが増加していることを発見	別添 ALS-3
	2003 年度 葛原茂樹	わが国に多い長期人工呼吸器装着 ALS の病態(total locked-in)を明らかにした	別添 ALS-4
	2004 年度 葛原茂樹	孤発性 ALS では運動ニューロンに細胞選択的, 疾患特異的な GluR2Q/R 部位の RNA 編集が低下していることを明らかにし, 興奮性神経細胞死仮説を裏づけた	別添 ALS-5
PD	2000 年度 田代邦雄	Parkin 蛋白がユビキチンリガーゼであることの発見. 神経細胞内蛋白分解障害が発生機序であることを示唆.	別添 PD-4
HD	2001 年度 葛原茂樹	ミオグロビン蛋白質にポリグルタミン鎖を封入し, 鎖の伸長によって蛋白が不安定になることを確認し, 不安定化を抑える抑える物質を検索した (トレハロース)	別添 HD-2
	2003 年度 葛原茂樹	延長したポリグルタミンは蛋白凝集の初期に偽凝集物を形成する	別添 HD-3
PSP		特になし	
CBD	2001 年度 田代邦雄	脳脊髄液中のタウ蛋白が大脳皮質基底核変性症では上昇することを明らかにした	別添 CBD-1
SBMA	1992 年度 萬年 徹	アンドロゲン受容体遺伝子の CAG リピート数と疾患重症度が関連することを報告	別添 SBMA-2
	2001 年度 田代邦雄	ヒトのアンドロゲン受容体遺伝子導入トランスジェニックマウスの細胞核内にポリグルタミン封入体形成を確認	別添 SBMA-3
	2002 年度 葛原茂樹	トランスジェニックマウスにおいて臨床症状の出現は, テストステロンを介する発生機序によることを発見	別添 SBMA-4
脊髄空洞症	1993 年度 矢田賢三	脊髄空洞症研究班において, 1991~92 年にかけて調査を行い, 我が国の疫学像を明らかにした	別添 脊-1

(3) 治療法 (予防法を含む) の開発について

ア 発症を予防し、効果があったもの

疾患名	時期 及び 班長名 (当時)	内容	備考
ALS, PD, HD, PSP, CBD, SBMA, 脊髄空洞症		特になし	

イ 完治に至らしめることはできないが、進行を阻止し、効果があったもの

疾患名	時期 及び 班長名 (当時)	内容	備考
ALS	1998 年度 田代邦雄	ALS 患者にメチルコバラミンを大量投与し、生存期間あるいは人工呼吸器装着までの期間が有意に延長した	別添 ALS-6
PD	2001 年度 田代邦雄	パーキンソン病の定位脳手術の適応と手技の確立に関する多施設共同研究	別添 PD-5
HD	2004 年度 葛原茂樹	糖質の一種で健康食品としても市販されているトレハロースが、ハンチントン病モデル・トランスジェニックマウスの症状を軽減	別添 HD-4
PSP	1987 年	わが国で開発されたドロキシドーパ (ドプス) が純粋無動症の症状を改善した報告	別添 PSP-2
CBD		特になし	
SBMA		特になし	
脊髄空洞症		特になし	

ウ その他根本治療の開発についてのもの

疾患名	時期 及び 班長名 (当時)	内容	備考
ALS	2002 年度 葛原茂樹	ユビキチンリガーゼ・ドルフィンは、SOD1 トランスジェニックマウスの神経細胞死を予防することを見出した	別添 ALS-7
	2003 年度 葛原茂樹	GDNF 遺伝子搭載アデノ随伴ウイルスベクターを SOD1 トランスジェニックマウス四肢筋に注入し、発症の遅延と延命効果を認めた	別添 ALS-8
PD	2002 年度 葛原茂樹	MPTP 投与パーキンソンモデルザルに対するアデノ随伴ウイルス(AAV)ベクターを用いたドパミン合成酵素遺伝子導入治療	別添 PD-6
HD		特になし	
PSP		特になし	
CBD		特になし	

SBMA	2003 年度 葛原茂樹	本症遺伝子と分子シャペロンである熱ショック蛋白の両者を導入したトランスジェニックマウスでは臨床症状が軽減する	別添 SBMA-5
	2003 年度 葛原茂樹	LHRH アナログのリュープロレリン投与でアンドロゲン作用を阻止することにより，トランスジェニックマウスの発症が抑制されることを確認	別添 SBMA-6
	2004 年度 葛原茂樹	ヒト患者に対するリュープロレリン投与臨床治験開始	別添 SBMA-7
脊髄空洞症		特になし	

2. 「1」以外で、国内、国外を問わず、研究成果の現在の主な状況について

(1) 原因究明について（画期的又は著しく成果のあったもの）

疾患名	時期	内容	文献
ALS	1993 年	常染色体優性遺伝家族性 ALS の原因遺伝子(SOD1)を発見	別添 ALS-9
	2001 年	常染色体劣性遺伝家族性 ALS (チュニジア家系) の原因遺伝子(Alsin)を発見	別添 ALS-10
	2003 年	グアムの ALS 多発の原因として，ソテツの実の神経毒(BMAA)はシアノバクテリアにより生成されるとする仮説提唱	別添 ALS-11
PD	1997 年	常染色体優性遺伝パーキンソン病(イタリア・ギリシャ由来)の原因遺伝子 α -synuclein の発見	別添 PD-7
	2002 年	常染色体劣性遺伝パーキンソン病の原因遺伝子 DJ-1 の同定	別添 PD-8
	2004 年	常染色体優性パーキンソン病(相模原)の原因遺伝子 LRRK2(dardalin)の同定	別添 PD-9
HD	1983 年	連鎖解析により第 4 番染色体短腕先端部に遺伝子座を同定	別添 HD-5
	1993 年	原因遺伝子 IT15(huntingtin)発見	別添 HD-6
	1998 年	ヒト・ハンチントン病の神経細胞核内に CAG リピート延長と関連のある封入体が存在	別添 HD-7
PSP	1997 年	進行性核上性麻痺ではタウ遺伝子イントロン多型 A0 の頻度が高いことを見出した	別添 PSP-3

CBD	2001年	皮質基底核変性症のタウ遺伝子多型は進行性核上性麻痺と一致していた。同じ原因で生じている疾患であることを示唆。	別添 CBD-2
SBMA	1991年	アンドロゲン受容体遺伝子変異による CAG リピートの延長が病気の原因であることの発見	別添 SBMA-8
脊髄空洞症	1965年	脊髄空洞症の原因は、後頭蓋窩の形成異常と髄液振動による髄液流入とする仮説	別添 脊-2
	1980年	Arnord Chiari 奇形合併時の脊髄空洞症の発生機序を解明	別添 脊-3
	1990年	外傷後の脊髄空洞症の発生の報告	別添 脊-4

(2) 発生機序の解明について (画期的又は著しく成果のあったもの)

疾患名	時期	内容	文献
ALS		特になし	
PD	1998年	α -synuclein がレビー小体の主要な構成要素であることの証明	別添 PD-10
	2000年	ユビキチンリガーゼとしてのパーキン蛋白の基質として CDCrel-1 を同定	別添 PD-11
	2001年	パーキン蛋白リガーゼでパーキン代謝に関与する Pael 受容体を同定	別添 PD-12
HD	1995年	ハンチンチン遺伝子のノックアウトマウスでは、胚発生の障害と胚生致死を認め、ハンチンチンが胚発生に主要な機能を果たしていることを示唆	別添 HD-8
	1996年	ハンチンチン遺伝子に増大した CAG を発現させたトランスジェニックマウスで、ヒト舞蹈病のモデルマウスを作成した	別添 HD-9
PSP	1992年	アルツハイマー神経原線維変化を構成するタウ蛋白には6種類のアイソフォームがある	別添 PSP-4
	1999年	進行性核上性麻痺と皮質基底核変性症の異常タウはアルツハイマー病のそれとは異なる	別添 PSP-5
CBD		特になし	
SBMA	1998年	CAG リピート延長産物であるユビキチン陽性のポリグルタミン封入体を細胞核内に確認	別添 SBMA-9